



平成12年、盟約締結5周年を記念し、ド市のドナウの泉に斎藤茂吉の歌碑を設置。その返礼として、市役所正面にはド市から贈られた情報三角柱がある



横戸市長と握手を交わすフライ大市長

海外友好都市ドイツ・ドナウエツシンゲン市 ソルステン・フライ大市長をはじめ 5人の訪問団が来市

市内を視察し、交流を深める

11月3日～6日、海外友好都市ドイツ・ドナウエツシンゲン市（以下、ド市）から、ソルステン・フライ大市長をはじめとする5人の訪問団が本市を訪れました。フライ大市長の来市は今回が初めて。

ド市と本市は、斎藤茂吉がドイツ留学中に訪れたことをきっかけに、平成7年友好都市盟約を締結。相互に学生訪問団などを派遣し、交流を図っています。そして今年、盟約を結んでから15周年に当たります。

訪問団は、4日、横戸市長や高橋市議会議長を表敬訪問。上山の自然や食文化をはじめ、行政運営や議会



4日、上山明新館高校を訪問。書道の授業を見学、体験したほか、生徒たちが食用木オズキの取り組みなどを発表。邦楽部が琴の演奏を披露した

制度まで幅広く意見を交換しました。その後、蔵王坊平アスリートヴィレッジや斎藤茂吉記念館、市内企業などを視察。6日には、市総合産業まつりで市内の最先端技術を見学したほか、いけ花や盆栽など日本の文化にもふれました。さらにド市コーナーでは、一行がはっぴ姿でド市の魅力を紹介。滞在中、多くの市民と交流しました。

フライ大市長は「人々とともに友好的。私たちが快く歓迎していた、温かいおもてなしに感謝しています。また、上山城や雄大な自然、文化など大変素晴らしい。実際に上山を訪れ感じたことを、多くのド市民に伝えていきたい」と感想を話していました。

市は、市民訪独団の派遣も検討しながら、さらに両市の友好を深めていきます。



ド市の建物や風景が描かれた絵ハガキを手渡し、市民に紹介。市総合産業まつりにて